

令和7年度 障害を理由とする差別に関する相談状況について

〈相談件数概要〉

- ・相談件数は、49 件であった。
- ・受付時において、不当な差別的取扱いに関する相談および合理的配慮の提供に関わる相談に類型したものが29件、「その他」の相談として類型したものは20件であった。
- ・同一相談者からの相談もあり、実人数としては32人の相談者に対応した。

〈相談件数〉

- ・相談件数(件)

障害者差別解消推進員(県)	34	合計
障害者差別地域相談員(市町村)	15	49

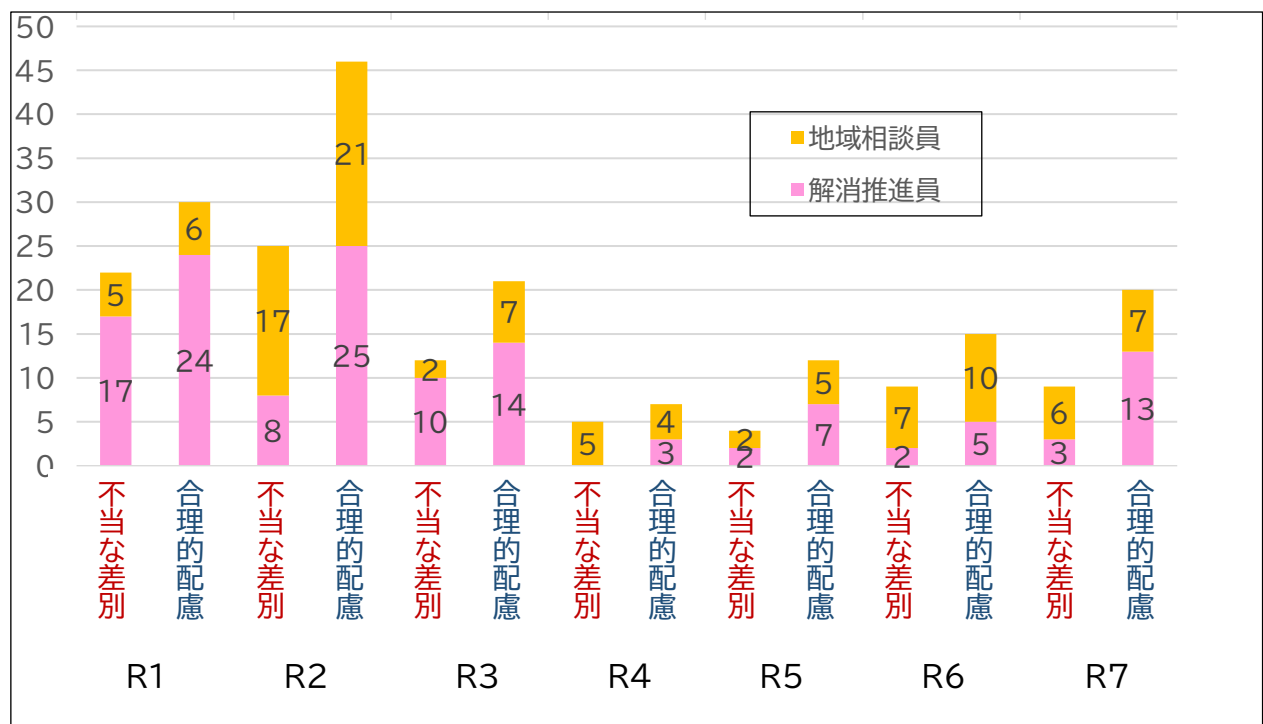
- ・受付時における分類(件)

		県	市町村
不当な差別に関わる相談	9	3	6
合理的配慮に関わる相談	20	13	7
「その他」	20	18	2

※ 「その他」とは、障害者差別に関わる相談として受理したが、傾聴事案として対応したもの、及び不当な差別や合理的配慮の提供に関わる相談として類型しなかったものをいう。

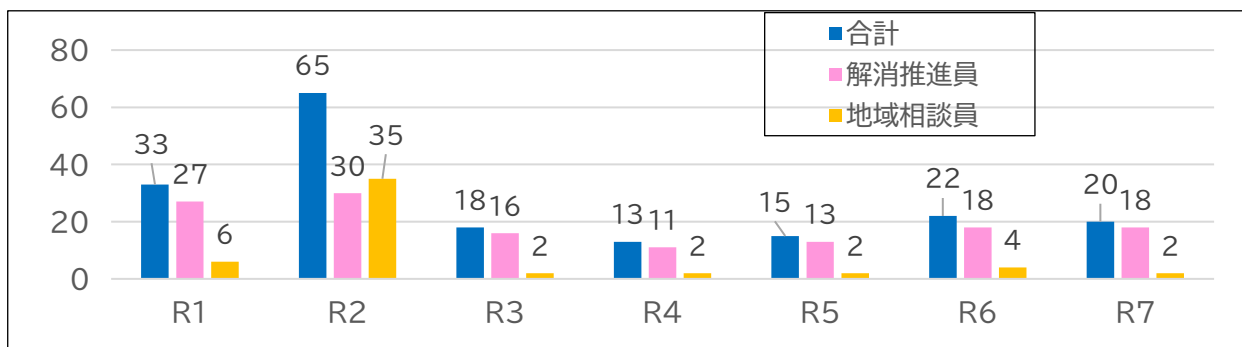
◇特定相談件数の推移(件)

区分		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	累計
合計		52	71	33	12	16	23	29	236
不当な差別	解消推進員	17	8	10	0	2	2	3	42
	地域相談員	5	17	2	5	2	7	6	44
合理的配慮	解消推進員	24	25	14	3	7	5	13	91
	地域相談員	6	21	7	4	5	10	7	60



◇「その他」の相談件数の推移(件)

区分	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	累計
合計	33	65	18	13	15	23	20	187
障害者差別解消推進員	27	30	16	11	13	18	18	133
障害者差別地域相談員	6	35	2	2	2	5	2	54

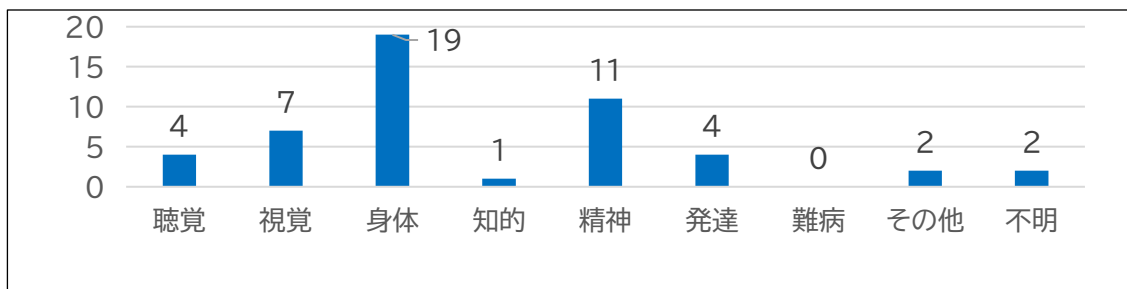


※その他の相談としては、障害を理由としない困りごとや、健常者との比較ができない事案が寄せられた。また、行政への不満や他法での該当事案もあり、他機関を情報提供するものもあった。

◇障害種別相談件数

障害種	件数	障害種	件数
聴覚障害	4	発達障害	4
視覚障害	7	難病	0
身体障害	19	その他	2
知的障害	1	不明	2
精神障害	11	計	50

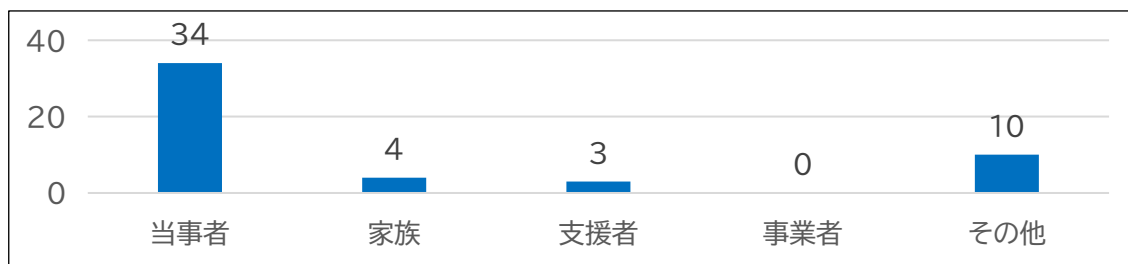
肢体不自由障害を中心とした身体障害が19件と最多であるが、同一相談者からの相談が多かったため、実人数は7人であった。
重複障害者もいたため、前数値より多くなっている。



◇相談者別相談件数

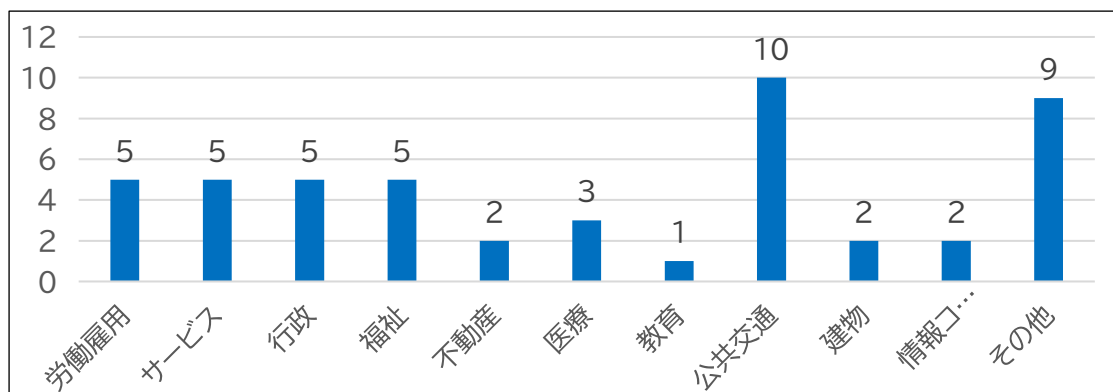
相談者	件数	相談者	件数
当事者	34	事業者	0
家族	4	その他	10
支援者	3	計	51

当事者からの相談がほとんどである。その他は、当事者団体や第三者や親族からの相談であった。複数人での相談もあり、前数値より多くなっている。



◇相談分野別相談件数

相談分野	件数	相談分野	件数	相談分野	件数
労働・雇用	5	不動産	2	建物	2
サービス	5	医療	3	情報・コミュニケーション	2
行政	5	教育	1	その他	9
福祉	5	公共交通	10	計	49



毎年、公共交通に関する相談が多く、車いす利用者が、路線バスや鉄道を利用する際の相談が多かった。医療の相談では、昨年まで多かった診療の相談ではなく、情報コミュニケーションの分野でもある、受付等のデジタル化についての相談が目立った。